

正誤表

「水野広徳著作集 新装版」第三巻において、以下の通り文章の欠落がありました。お詫びして訂正いたします。

310ページ 「二 日米海軍力」内 4行目以降

——左の如く規定制限せられて居る。(以下、欠落部分)

即ち条約量を比率にすれば主力艦、大巡洋艦及航空母艦は日本は米国の五分の三、軽巡洋艦及駆逐艦は十分の七、潜水艦は同率である。

右の他高速力大商船にして戦時仮装巡洋艦として敵艦捕獲等に使用し得るもの(二万噸十八^ノ節^ト以上 米国の十三隻に対し日本は僅に二隻に過ぎない。

米国は此れ等の艦艇を大西洋艦隊及太平洋艦隊に二分し、別に亞細亞艦隊として一支隊を東洋に派駐して居る。而して之が策源地又は作戦基地としては大西洋方面にはフィラデルフィヤ、ナラガンセット、ガンタナモ(キューバ島)等あり、太平洋方面にはビューゼットサウンド、メーヤアイランド、サンペトロ、サンデイゴ、アリュウシャン群島の

ウナラスカ等あり、更に——

310ページ 「三 米国海軍の大欠陥」内 1行目以降

——現有海軍力は巡洋艦に於て著しく(以下、欠落部分)

日本に劣っている。殊に八吋砲搭載の大巡洋艦に於ては日本の既成艦十二隻に対して僅に八隻に過ぎない。此の八吋砲巡洋艦は華府会議後創案せられたる新艦種であつて、ジュネーブの三国会議は之が比率協定不調の爲めに決裂し、倫敦会議も亦之が爲めに大破瀾を生じたる程の極めて重要な軍艦である。乃ち其の攻撃力は主力艦に及ばざるも、其速力は駿く、其の砲力は強く、しかも其の行動力の大にして敏なること実に海上の王者とも言うべく、之に海上を荒されては如何なる軍艦も殆んど手の付け様がない。されば此種軍艦の劣勢なることは米国海軍に取りて殆んど致命に近き弱点であつて、現在の米国海軍は主力艦たる胴体のみ徒らに大にして手足の發育不良なる不具者である。是れ米

——国が今回の支那事変に対して——